

## ただの散歩じゃないさんぽ

桐蔭学園小学校 三年 大塩 陽菜 おおしお ひな

さんぽに出かける。散歩と言ってもただの散歩ではない。未来からやってくる私をさがすさんぽだ。私には夢がある。それは、人類初のタイムマシンを作って、世界にイノベーションをおこすこと。簡単なことではないけれど簡単なことじゃないから面白い。きっとできると私は思う。タイムマシンが完成したら、未来の私はきっと過去の私、つまり、今の私に会いに来るだろう。もしかしたらもうすでに来ていて、どこかで私のことを見ているかもしれない。久しぶりの過去の世界に嬉しくて町をぶらぶら歩いているかもしれない。未来の私は今、どこにいるのだろうか。

休みの朝、お母さんはスペシャルな朝食を作ってくれる。サクサクして中がふわつとしたフレンチトースト、玉子やベーコン、チーズがはいったBLTサンド。

私は、美味しい朝が来るのが楽しみで、早起きをする。朝ご飯を食べた後、ただの散歩じゃないさんぽに出かける。冷たい空気が気持ちいい季節。最初に向かうところは、芹が谷公園。朝早い時間に行くと、ロングすべり台が空いている。階段を登ってシューツと滑る。ほおにあたる風がひんやりして気持ちがいい。私は駆け足で芹が谷公園へ向かった。未来の私もあのロングすべり台を滑っているかもしれない。芹が谷公園に着くと、まだ遊んでいる子供はいなかった。一人も並んでいないロングすべり台を、私は何度も滑った。階段を駆け足で登り、時々、滑り台の上から私を探した。どこにもいない。ラスト一回を滑って冒険遊び場へ移動する。こつちも一番のりだ。ターザンロープからネット。竹のブランコまでぜんぶが面白い。ここでは、焚火もできるからお芋をやいてもらった時は最高。このオプシオン付きでまた遊びに来よう。さんぽはまだ始まったばかり。芹が谷公園にはいなかった私。次は文学館、ことばらんどへ行くことにした。

私が住む町田駅周辺には、文学館から図書館と本にふれられる場所がいくつもある。本好きな私には幸せなところ。未来の町田が、本のまち町田と呼ばれていたなら私は嬉しい。

ことばらんどに着き、館内をざっとみたけれど私はいなかった。ここから中央図書館までは近い。ことばらんどで少し本を読んでから私は中央図書館へ向かった。中央図書館はとにかく広い。本の数もすごい。外国語で書かれた本、点字の本、本だけでなくDVDもある。ここにいたら一日なんてあつという間だ。私は借りたい本を選んでから館内をさんぽして中央図書館を出ることにした。ここにも私はいなかった。図書館と言えば、家の近くにあるさるびあ図書

ことばらんど賞  
大塩陽菜「ただの散歩じゃないさんぽ」

館。その隣にデゴイチがある。小さい時、さるびあ図書館で本を読んだ後は、デゴイチで遊んだ。決めた。次に向かうのはさるびあ図書館。

この図書館の好きなところは、入口前の花壇が華やかなところ。花壇に咲く季節の花は、いつみても綺麗な。町田の町なかを通って、さるびあ図書館へ向かう。途中、いくつかきんじよの本棚を見つけ、未来の私は、ここにも立ち寄ったかもしれないと思った。

目的地に着くと、花壇の葉牡丹がこんにはと声をかけてくれた。未来の私は、この声に気付いたかな？葉牡丹に挨拶をした私は中に入り私を探した。ここにもいない。外に出てデゴイチのところへ行った。でも、誰もいなかった。私は家に帰ることにした。私はどこにいるんだろう。

私の家はマンションなので庭がない。広い庭のある一軒家に憧れていた。庭で野菜を育てたり、バーベキューをやったり、何でもできそうな気がした。家のマンションのベランダではできない。でも、うちの前にはシバヒロという広いみんなの庭があった。サッカーやかけっこ、ダンスの練習までみんなの庭では何でもできた。この庭で、私は憧れのバーベキューをやった。家に帰る前に私はシバヒロに行くことにした。シバヒロを歩いてさんぽする。手入れされた綺麗な芝生。歩いているだけで気持ちがいい。私は少しの間、靴を脱ぎ裸足でシバヒロをさんぽした。その時、私は一瞬誰かと目が合った気がした。私かな？未来の私かもしれない。私は胸がドキドキした。そして深呼吸をして全集中で私を探した。でもみつからなかった。気のせいかな？ とても残念。私は諦めて、脱いでいた靴をまた履いて家に帰ることにした。

玄関を開けるとお母さんが待っていた。

「おかえり、さんぽはどうだった？」

にこにこしながら私の手を握るお母さん。優しい声とこの笑顔をみて私は安心する。

そっかあ。私は思った。タイムマシンを完成させて、未来の私が過去に戻って一番最初に会いたい人。そうだよ。私は嬉しくなった。

ただの散歩じゃないさんぽ。明日はお母さんの後をつけてみよう。

ことばらんど賞  
大塩陽菜「ただの散歩じゃないさんぽ」

町田の魅力的なスポットと一緒に散歩させてもらっているよ  
うな素敵な作品でした。そして結局、一番会いたい人が誰だっ  
たかというところに、優しい気持ちにさせてもらいました。最  
後の、今度は後をつけてみよう、という一文も、可愛らしさと悪  
戯っぽさと、さまざまにニュアンスが感じとれて良かったです。

—— KEN THE 390